

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(男鹿市)

1 市の概要(人口25,264人)※令和4年4月1日現在

就学前教育・保育施設数、小学校数(令和4年4月1日現在)

幼稚園	うち、幼稚園型 認定こども園	幼保連携型 認定こども園	保育所	うち、保育所型 認定こども園	地方裁量型 認定こども園	小学校
1園	0園	0園	6か所	1園	0園	6校

その他:事業所内1

2 教育・保育の現状と課題

市の教育・保育の課題

- (1) 教育・保育アドバイザーの継続的な支援のもと、保育者の研修意欲の高揚を進展させ、就学前教育・保育の推進体制を定着させていくことが課題である。
- (2) 市教育委員会指導主事と教育・保育アドバイザーの連携による接続を見通した教育課程の編成を目指し、接続期の質の高い教育・保育体制の充実・強化が必要である。

3 事業計画の概要(3年間の主な計画)

目 的(3年間)

これまで取り組んできた「わか杉っ子！育ちと学び支援事業」から見えてきた成果と課題を踏まえ、今後も県と連携しながら、就学前教育の質や専門性のさらなる向上を図るための教育・保育アドバイザーによる巡回指導や地域で学び合う研修会等の継続に努め、就学前教育の充実を推進する。

主な内容(3年間)

- (1) 部局間連携による教育・保育推進体制の充実
 - ・教育・保育アドバイザーを配置し、各就学前施設の課題解決に向けた継続的な支援をする。
 - ・幼保小の接続に向けた連携を強化していくために、教育委員会との連携を進めていく。
- (2) 教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援

保育の質や専門性の向上のために、巡回訪問を計画的に実施し、保育内容や園内研修の支援、ミドルリーダーや若手等の育成、保育者の面談等によるきめ細やかな支援をする。
- (3) 専門性の向上のための研修の充実
 - ・保育の質や専門性の向上を図るため、市内就学前施設全体に共通する課題解決に向けて、県指導主事や幼保指導員、県教育・保育アドバイザーと連携し継続的に導いていく。
 - ・公開保育により、各園の良さや課題を明確化し、施設間の交流体制を作る。また、市内就学前施設、小学校、及び近隣市町村と地域で学び合う体制を構築する。
- (4) 小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実

幼保小の相互理解を図るため、市教育委員会指導主事との連携のもと、市内就学前施設や市内小学校の保育者や教職員を対象にした合同研修を開催し、接続期の重要性の共有を推進する。
- (5) 県との連携体制の充実

県の就学前教育推進協議会、県主催の研修、教育・保育アドバイザー連絡協議会、指導主事要請訪問やこども園訪問、市に学ぶ研修等に参加し、教育・保育アドバイザーの質の向上を図る。

年度別重点

令和4年度	・各就学前施設の訪問を通して、各園の課題解決に応じた保育者支援と園内研修の支援を図りながらスキルアップを図る。 ・県主催研修会や教育・保育アドバイザー連絡協議会等に参加し、教育・保育アドバイザーの資質向上に努める。
令和5年度	・キャリア別研修や園訪問を通して保育の改善と質の向上を図る。 ・小学校との円滑な接続が充実するよう、市教育委員会との連携を図る。
令和6年度	・各就学前施設の課題に応じた支援と、幼保小の円滑な接続に向けた合同研修の充実に努める

令和4年度「わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業」事業概要(男鹿市)

4 令和4年度の具体

目 的	
・ 教育・保育アドバイザーによる市内就学前施設への巡回訪問を通して保育内容や保育者の支援、キャリアに応じた研修会を開催し、就学前教育の質の向上を図る。 ・ 幼保小の円滑な接続のため、市指導主事との連携を密にしながら、男鹿市就学前・小学校合同研修を開催し、幼保小が接続期の重要性を共有する。また、公開保育や授業参観等を通して、幼保小の職員が互いに学び合う体制づくりを構築する。 ・ 県主催研修会等への参加により教育・保育アドバイザーとしての専門性の向上を図る。	
実施内容及び実施状況(中間)	
(1)「部局間連携による教育・保育推進体制の充実」 ・ 教育・保育アドバイザーの配置 ・ 保育者の専門性の向上を図るため各種研修会を実施 ・ 専門機関との連携推進 ・ 市教育委員会との連携実施 ○担当課から市教育委員会や市指導主事へ連絡を取ることで、徐々に接続期の重要性が浸透してきている。今後も積極的に連絡を取りながら就学前教育につなげていきたい。 ●連携を待っているのではなく、担当課が主体的に働きかけていく必要がある。 △乳幼児理解につながるよう担当課だけでなく、関係する課や関係機関との連携を取りながら進めていく。 (2)「教育・保育アドバイザーによる園や保育者への充実した支援」 ・ 教育・保育アドバイザーを1名配置し、毎月1回、各就学前施設を計画的に訪問し、保育参観、園内研修、公開保育やサポート事業の事前打ち合わせ、園運営の相談等に対する支援を実施。 ・ 専門機関職員の参加による特別支援会議や指導主所要請訪問の同行実施を通して、知識や技術等を学ぶ。 ・ 年度当初の園訪問は、園運営や本事業に対する今年度の方向性について話し合い、年度末には1年間の成果と課題、要望等について聞き取りし次年度に活かす。 ・ 主に異動職員、フレッシュ職員等を対象に個人面談をする。 ◇令和4年度アドバイザーによる巡回訪問・指導(男鹿市)	
⑥派遣実績 計15施設／教育保育施設全9施設 小学校6施設 104回	
回数	・ 幼稚園：私立1園(9回) ・ 保育園：市立6園(66回) ・ 保育所型認定こども園：市立1園(8回) ・ その他の施設：(事業所内保育施設1か所(2回)) ・ 小学校：6校(19回)
訪問内容	・ 園内研修支援(保育改善、テーマ別、研修方法、研修計画)(実績のうち、9園(62回)) ・ 公開保育支援(指導・助言、公開保育研究会の運営・準備)(実績のうち、4園(10回)) ・ 個別相談(保育者の面談及び指導等、園の課題解決対応等)(実績のうち、9園(47回)) ・ 状況把握(保育の状況観察、園長等への聞き取り調査)(実績のうち、9園(85回)) ・ 周知活動(広報紙等での取組経過の伝達、事業内容説明)(実績のうち、9園(33回)) ・ 県と同行(指導方法研修、園の課題共有、指導内容の明確化)(実績のうち、8園(6回)) ・ 幼小接続(幼小接続に関する調査及び事業等)(実績のうち、6校(19回)) ・ 特別支援訪問(実績のうち、8園(7回))
理由	・ 市内の就学前施設を訪問し、保育内容や園内研修、園の課題について支援し、保育の質や専門性の向上を図るため。また、市内の小学校を訪問し、円滑な接続に向けての相互理解を深めるため。

○保育内容や園内研修における成果や課題等について、保育者と一緒に考える場を持ったことで、保育や園内研修に対して意識しながら実践するようになってきた。また、園内研修では、活発な意見交換を通して自分の考えや思いを伝える力がついてきている。

●保育の質や実践力に個人や園に差がある。「主体性を大事にした保育」や「子どもにとって」、「発達」や「関わり方」等、今後も一人一人に応じて一緒に考えていかなければいけない。また、園内研修では、研究を深めていくために「その後どうしていくのか」についての支援が必要である。

△保育の振り返りや園内研修担当者による振り返りの時間をその都度確保していくために事前に当日のスケジュールに入れるよう伝えていく。

(3) 「専門性の向上のための研修の充実」

①6月10日（金）フレッシュ研修Ⅰ・Ⅱ（キャリア別研修）

会場：男鹿市脇本公民館 参加者8名

内容 「週日案の書き方と振り返りの仕方について」

講師 秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部真理 氏

講師 秋田県教育庁幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

○内容を、研修対象者である1～5年目向けとしていただいたことで、分かりやすかったという感想が聞かれた。また、研修会後の実際の指導案では、項目のポイントを理解して書くようになった。

●指導案の項目の理解はしていても、いざ書くと一般的な書き方になっていることもあるため、子どもの姿から何を育てたくて、どう保育をしていくのか等、具体的なことを一緒に考えていく必要がある。

△振り返りの時間に、指導案の内容についても一緒に考えていくようにする。



実際に指導案を作成

②7月6日（水）全体研修 会場：男鹿市民文化会館 参加者9名

内容 「週日案の書き方と振り返りの仕方について」

講師 秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

講師 秋田県教育庁幼保推進課 幼保指導員 阿部真理 氏

講師 秋田県教育庁幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

○各園の要望により、開催した研修である。参加者からは「指導案の必要性」や「項目の捉え方」、「何を育てたいのか」、「何をどう経験していくのか」など、一つ一つ具体的に教えていただき、今までの悩みが解消されたという感想が多くあった。その後の園訪問では、今回の学びを活かした指導案の書き方に努めていると感じる。

●今回の学びが各園の一人一人に浸透しているわけではないので、今後も園訪問等を通して一緒に考えたり、アドバイスをしたりしながら、子どもの姿からの指導案になるよう支援していく必要がある。

△園全体に浸透するよう園内研修等で今回の学びを伝えていく。



講師を交えて話し合う

③10月29日（土）全体研修（キャリアアップ対象研修）

会場：男鹿市民ふれあいプラザ 参加者14名

内容 「乳幼児教育・保育の理解」

講師 秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

- 「保育を深く考える機会となった」「各年齢に応じた捉え方の必要性が心にしみた」「指導計画に反映していきたい」等、前向きな感想が多かった。自分の保育を振り返り、本日の学びを活かした保育となるように努めている姿が園訪問等でみられるようになった。

- 今後も、保育の基本を再確認できるような全体研修や学びを継続していく必要がある。

④11月9日（水）キャリア別研修（臨時保育士・臨時幼稚園教諭研修）

会場：男鹿市脇本公民館 参加者7名

内容 「保育の質を高めるために」

講師 秋田県教育庁幼保推進課 主任指導主事 武石郁子 氏

講師 秋田県教育庁幼保推進課 教育・保育アドバイザー 山上真智子 氏

- 普段保育に関する研修を受けることが難しい臨時保育士にとって、0・1・2歳児の未満児、3・4・5歳児の以上児、それぞれの各年齢の育ちの理解と保育者の関りについての講義は新鮮で大きな収穫となった。その後の園訪問において、子どもをよく見るようになったり、ゆっくり話しかけたりするなど保育に対する気持ちの変化が感じられるようになった。

- 研修については「今回初めて受けた」「何年も受けていなかった」という参加者からの話があった。学びの場は正職員、臨時職員に関係なく平等に提供していく必要がある。

△園訪問において、各園で実施されている保育参観、保育参観後の振り返り、園内研修、保育を語る会、クラス会議等に臨時保育士も参加できるよう伝えていく。

⑤12月8日（木）公開保育研究会（男鹿市立北浦保育園）

…新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止

（4）「小学校教育との円滑な接続に向けた研修等の充実」

- ・教育委員会と担当課が4月に令和4年度の方針について確認し、1月には令和5年度に向けての協議の場を設定
- ・市指導主事と連携をしながら「男鹿市就学前・小学校合同研修会」を開催
- ・各小学校主催の幼保小連絡協議会に参加（第1回：4月、第2回：2月）
- ・公開保育研究会や要請訪問日に、小学校教員が保育参観と協議に参加するよう市教育委員会や学校へ依頼
- ・各小学校主催の公開研究授業に保育士が授業参観と協議に参加できるよう依頼
- ・幼保小相互理解のため、認定こども園船川保育園保育士と船川第一小学校1年生担任、船越保育園保育士と船越小学校1年生担任が1日職場交換体験。小学校教諭による保育士体験は小学校の夏休み期間中、保育士による小学校教諭体験は6月
- ・保育士が小学校フリー参観等に出席

①男鹿市就学前・小学校合同研修会

7月27日（水） 会場：男鹿市民文化会館 参加者12名

内容 「育ちと学びをつなぐ幼小の円滑な接続について」

講師 秋田県教育庁幼保推進課 指導主事 佐藤忠浩 氏



5歳児年間指導計画の発表



円滑な接続のための取り組みを学ぶ

○スタートカリキュラムと5歳児年間指導計画を互いに持ち寄り、説明・紹介し合ったことで学校教育や園の教育・保育内容の相互理解につながった。参加者からは「お互いのカリキュラムを意識しながら作成したい」「一緒に話し合いながらお互いの子どもの育ちを大事にしたカリキュラム作成をしたい」という感想が聞かれ、育ちのつながりが大事であるという意識が相互にできた。

●今後も、幼保小の職員同士が「円滑な接続」「育ちの連続性」等の重要性を共有することができるよう合同研修を開催する必要がある。

△今後は合同研修が定着していくよう連絡協議会や授業参観、連携通信等を活用し効果などを伝えていく。

②各小学校と就学前教育施設との連携

・男鹿市立船川第一小学校

5月19日（木）幼保小連絡協議会

7月13日（水）一日小学校教諭体験（1年生）・協議

2月 3日（金）体験入学

2月28日（火）幼保小連絡協議会

・男鹿市立脇本第一小学校

6月 3日（金）幼保小連絡協議会

10月13日（木）授業参観（1年生と2年生）・協議

2月 2日（木）体験入学・入学説明会

・男鹿市立船越小学校

6月 9日（木）幼保小連絡協議会

2月10日（金）幼保小連絡協議会

・男鹿市立払戸小学校

6月 9日（木）幼保小連絡協議会

7月 5日（火）授業参観（1年生）・協議

・男鹿市立美里小学校

5月27日（金）幼保小連絡協議会

11月11日（金）体験入学

2月24日（金）幼保小連絡協議会

・男鹿市立北陽小学校

2月13日（月）幼保小連絡協議会



保育士が教諭体験

○就学前施設職員は、これまで幼保小連絡協議会以外への参加がほとんどなかった。前年度末

に、円滑な接続に向けて市教育委員会と担当課が協議の場を持ったことにより、授業参観や協議に参加することができた。このことがきっかけとなり、就学前施設職員と小学校教職員が相互に接続の重要性を意識し理解するようになった。

- 円滑な接続のために今後も引き続き協議会、授業参観、一日小学校教諭体験、一日保育士体験等を継続していく必要がある。

△様々な場面を通して連携の大切さを各就学前施設や小学校に伝えていく。

(5) 「県との連携体制の充実」

- ・県と連携しながら就学前施設や保育士の課題解決に向けた継続的指導や支援
- ・就学前教育推進協議会、教育・保育アドバイザー連絡協議会への参加
- ・市主催研修会講師として依頼
- ・県教育・保育アドバイザーの育成支援の活用

○研修会開催に向けて講師と事前打ち合わせをすることにより、参加者が事前学習をし、意識しながら参加するようになった。意欲的な参加につながっている。

○要請訪問への同行が、教育・保育アドバイザーのスキルアップにつながっている。また、市に学ぶ研修では各市アドバイザーから学ぶものが多くあり今後も継続してほしい。

5 わか杉っ子！育ちと学びステップアップ事業（令和4年度）の成果と課題

○園訪問で、保育参観後や園内研修参観後に一緒に考える時間を持ったことで、「子どものため」を軸として「自分のための保育」や「自分のための園内研修」として受け止めるようになり、意欲的に「子どものため」を意識した保育をするようになった。また、今後は更に「自分のための」が「園全体のため」につながっていくことに期待している。

○園訪問から見てきた課題から、必要と思われる研修会を設定したことで、保育の質や専門性の向上につながってきている。

○小学校との円滑な接続については、就学前施設と小学校との協議会、小学校教職員の保育参観、授業参観への参加、幼保小連携通信「ぶらんこ」による情報提供等により、小学校教職員の就学前施設の教育・保育の内容に対する理解が深まってきている。

- 「認定こども園サポート事業」を市内の公立保育園全体で取組んでいることから、これまで続けてきた研修会の内容や開催数を就学前施設と相談しながら見直していく必要がある。

- 小学校との連携では「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」を共通のものとして、協議し合う中で「幼児期の終わりまでに育って欲しい姿」をより深めていく必要がある。